

18
ADULT ONLY



邪マ^{ちん}が
イタク!!

ふんふふ〜ん

いや〜
今日のミツシヨンは
疲れたなあ

早く熱い
シャワーでも
浴びて

布団の中で
熟睡して
やろ〜っと……





拘束具っ……!!?

誰だっ!!
こんな真似っ!!

ジャンヌ・
オルタっ!!

あははっ……!!
随分と威勢が
いいわねマスター!!

ちよつと何よ
その反応はっ

それには
名前をいってよ!!
あしはいてよ!!

……って
なんだ
邪ンヌか

ほんっ

いやあ
清姫や静謔だとか
思ったから……

ほんと
どうしよう……

すっごい
トラウマ
抱えてるっ?!

ほら
これさっさと
はずしてくれよ

いま
いや

……は?

へ?
相談事じゃないの?
皆ともっと仲良く
なりたい……とか

なら手錠
いらな
いかな……って

わ……私がそんな
寂しい奴なわけ
ないでしょっ!!

ち……
違うわよ!!

いいいつ
私の目的は
ただ一つ!!

あの聖女
おんな
見返して
やることよっ

そう……
先に「女」に
ことね!!

……そういう
ことだから
今からするわよ

ストップ
ストップ
ストップ

邪ンヌっ
自分が何を
言ってるか
わかってるのっ!?



邪ンヌは
下の話は
無知系だと
思ってた……っ!!

それを
何かに
持ってるし



ほらマスター
名譽ある私の
初めての相手
に選ばれたのだから
感謝しなさい

のや
助け

私のココに
挿入れるんでしょう?

知ってるわよ
貴方のその股に
ついてる粗末なモノを



これが男の
おちんちん……

えと……
…なんか
ちっちゃい
けど

手で弄ったり
してあげると
大きくなるん
だっけ？

は……
初めて実物
みた

さ……
触るわよ

いっ……痛ああっ!!

な……何よ
びっくりした
じゃない

それはごつちの
台詞だあ!!

じゃ……
いやあどうすれば
いいのよっ!!

ここは男の
デリケートな
部分なのっ!!

そこを籠手な
つけたままま
触るなあっ!!

金見て
体傷つてのかわりに
……



まずは
その恰好!!

そんな威圧感
満々な姿で
迫られても
勃つもんも
立たんわ!!

挿入れて
終わりとか

そんな簡単な
ものじゃないの!!

そ...そう
なの?

—だったら

これで
どうかしら—?



い...
ないんじゃないか?

あ...本当だ
ちよつと反応
してみた

じゃ...じゃあ
次は手を
使わないで
口だけでする

...どかかって
みたり

わ...わかった
わよ

口ですれば
いいんでしょ?

く...口っ!?
い...嫌よ
汚いっ!!

で...
次はどうすれば
いいの?

まあ別に俺は
いいけど...?
別に俺は
困らないし

ですよ

マジで...
マジで...



あっ
あぁ……っ!!

これ……でっ
いいの……？
マスター



もっと
舌を使って
こねくりまわす
様に——

歯は
たてないで

?!

ビュッ
ビュッ
ビュッ

口の中
全部使って
吸い付くん
だ——!!

びゅるるる
びゅるるる

お……
おつきく
なってる——!!



次はどうすればいいの？

っ!?

マスター
随分と気持ちよさそうな顔してるわね

私に『お願い』してご覧なさい



じゃ…
邪ンヌー—!!

ホラホラ
早くしないとこの手止めちゃうわよ—!!

…せ

この手錠を外せ…っ!!

は？

ち…
違うでしょ
もっとこう

それに
私は懸断
しろって

『—いや
命令だ』

『そして
その手錠で
自分を拘束しろっ!!!』

令呪—っ?!

それは
御林



くっ...!!

さて...と
これで形成逆転

覚悟は
いいかな...

クキ

クキ

うな

ね...
ねえマスター—

ちよこ
何を
するの—?

もちろん
邪ンヌが誘った
続きだよ

おま

言っただろ？
挿入れて終わりの
話じゃないって
邪ンヌにも気持ち
なって貰わなきゃ

おま

やめ……っ
はうん♡

ひんっ…
ひいやあっ……

意外だ
邪ンヌの
そんな声

なによ……
馬鹿に……
してるのっ……?!

違うって

可愛いって
言ってるん
だよ

か…可愛っ
私か…っ!?!

そんな…
……!!

吸われてる…
私の胸—
男なんか—
っ!!

もっと
聞きたいな

邪ンヌのお♀
喘ぎ声—!!



そんな...に
身体...っ
舐めまわして...っ!!

くっ...
んっ

んっ

あっ
あっ
あっ



何処に顔を
近づけてるのよおっ!!

な...何っ!?



邪ヌの
大事なところ——

これから
必要だから
ちゃんと準備
しておかない
ね!!

あっ
んっ
あっ
んっ



っ?!

やっ...はあし...
待つ...!!



何よ
これえ...っ!!

ウネウネしたの
私の中...
まさぐりあつて

これならもう
準備はいいよ
ね...!!



凄い...!!
ジャンヌの
愛液どんどん
溢れてくる...っ



はあはあ

はあはあ

はあはあ

はあはあ



こ……これで
あの聖女様より先に
オナナになれたって
ワケね!!

フ……フン

挿入ったよ
邪ンヌー!!

あっ……
はあ……
はっ……

こ...
これで充分
よね...?

ほ...ほら
マスター

も...もう
抜いていいわよ

んあ...?

んふふふふ

あうあつ...
はうつ...!!

ちよつ
とおおつ!!
なんでそんな
出し入れしてる
のよおおお...!!

奥に
ズンズンって!!

そんな
激し...っ!?

こんな
熱さなんて

私っ…
知らない
のオオオ…!!

熱い…!!

身体が
灼ける…みたい
なのにつ…!!

やだ
怖い…つ!!

大丈夫だよ
邪ヌヌ…

俺が抱きしめて
離さないから…



「No...
#27」

「No...」

「No...」

「No...」

「No...」

「No...」

調子に乗ってられたのも
今日までよ下らない聖女様!!

ぬはははは

私は昨日ねえ
アンタより先に
お…おん…

……っ!!

おはははは

は…
はあ?

お…
覚えてな
さいよ

!!!

うわおん

えっと
何だったので
しょうか…?

じゃ…
邪ンヌ…

あつて
やつは

アハ…

まあ…取り合えず
マスターが彼女相手に
何をしたのかは
解りました

そのことに
ついては

今夜にでも「また」
ベッドの中でも
聞きましょうか

邪ンヌ
既に一歩進んで
いたことに気付くまで
あと数日

ギョッ

漆黒のBaseJard